

平成 27 年度「みえの現場 “やっぱし” すこいやんかトーク」(大台町) の概要

平成27年7月18日(土)に、大台町栗谷の修遊館で、「みえの現場 “やっぱし” すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、全員が移住者であり、大台町(旧宮川村)の森林・河川・農地等を活用した都市農山村交流事業に取り組む『特定非営利活動法人みやがわ森選組』の皆さん7名に、移住したきっかけや、活動の魅力・課題などについてご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

代表から、団体の活動について紹介をしていただいた後、メンバーの皆さんから、出身地や普段の仕事などを含め、自己紹介をしていただきました。

(活動紹介)

- 以前、大台町(当時は宮川村)で土砂災害があった際に、イオンの植樹活動のコーディネートを頼まれたのが結成のきっかけ。山の仕事を一般に伝えることが役割と思って、昨年度は森つなぎプロジェクトという林業担い手の養成研修を実施した。大学生の農業インターンシップ事業や、カエル道場なども開催しながら、いろんな人に田舎の魅力や楽しさを伝える間口の部分をやっている。
- 大阪出身で移住13年目。メンバーの全員が移住者で、土地のために外の人にも活動が出来ることを示していければと考えて活動している。
- 愛知出身で移住13年目。家族も増えた。生活していて楽しいので、みんなも田舎暮らしをしたらいいのと思って、紹介している。
- 北海道出身で移住9年目。林業会社に勤めていて、土日は森選組の活動をしているが、仕事でのスキルアップにもなり、楽しみながらやっている。

- 桑名市出身で移住8年目。森選組が開催している「林業のススメ」という研修に参加して林業を知った。こちらへ移住して生活するようになって、林業の世話する側になればと思い活動に加わった。
- 津市出身。平日は大紀町で森林組合、土日は育児や森選組で活動している。山村へ来たからには、知恵を出して盛り上げていきたいと思っている。
- 京都出身。生き物、特にカエルが好きで、自然が多い所へ来たくて来た。カエル道場と言うイベントを開催していて、地元の人も「ただのカエル」としか思っていないが、実はいろんな種類があることを知ってほしい。
- 愛知出身で移住3年目。メンバーから声をかけてもらって参加した。会社や家の周りのつきあい以外のつながりが出来て良かったと思っている。どれもやったことがない活動なので、今後もしいろいろやっていきたい。

Q みなさん移住者ということで、なぜ大台町、大紀町を移住先に選んだのか、その理由、きっかけをお聞きしたい。

- 移住先の家を探していて、今住んでいる家が良いと思って、実際に見に来て気に入ったので移住した。
- 以前やっていた仕事で宮川に関わっていて、おもしろい地域と思っていた。田舎へ行こうと思ったときに、役場の方が家を見つけてくれた。既に、宮川に知り合いも出来ていたので移住した。
- 環境に関することに興味があったのと、人の縁があった。祖母が宮川にいたり、今の組合長との出会いがあり移住した。給与とプラス何かがあれば、田舎暮らしはいいと思う。生活サービスを受けるだけでなく、自分で何かをすることが出来る。
- 先に仕事があった。自分がやりたいと思っていることと近いことをやっている会社が、たまたまこの地域にあった。場所は、特に気にしていなかった。
- 岐阜の林業学校にいて、その先生に会社を紹介してもらったのが三重だった。宮川は、災害後の山をゼミで見に来たことがあって印象に残っていて、何とかしたいと思った。
- 田舎暮らしをしたいと思っていた、仕事があったのがここだった。適度な山の中で、イメージに合った。あまり固まったイメージを持ってなかったのが、逆に良かったのではないかとと思っている。
- 田舎で暮らしたいという想いがあった。当時の大阪事務所へ相談に行って、他地域もいろいろ見てまわって3年後にまた大阪事務所へ行った。当時の担当は異動していたが、わざわざ出て来てくれて紹介をしてくれて、役場でも、家を見つけ、仕事もすぐに見つけてくれた。人の縁がつながったので、すぐに決めた。

Q みやがわ森選組では、「林業研修」や「農業インターンシップ」、「都市農村交流事業」など様々な活動を行っているが、その活動の魅力をお聞きしたい。

- 外から来た人でも、何かをやっていける事を示せることがいい。ヨソモノだからこそ、地域の価値が分かる。不十分なモノでも、知恵と経験で乗り越えていける

- ことをもっと伝えたい。毎日、いろいろ考えるのが楽しくて、新しいプロジェクトをどんどん出している。地域の人にも、何かを始めるきっかけになればと思う。
- 農業インターンシップ事業は今年5年目で、2つの大学から参加してくるが、学生が現場に来て喜んでくれたり、何回か来ている間に変化してくるのが見えるのも楽しい。
 - カエル道場では、話したいことを話して楽しんでいるのだが、参加者にリピーターが出てきたり、お渡ししたカエルの鳴き声CDを車で聞いているという人もいてくれて嬉しい。鈴鹿や熊野などからも来てくれる。
 - 「林業のススメ」という林業研修を行っているが、自分が初心者で入った時に感じた疑問などを、次の人に伝えたい。木の伐り方などをちゃんと教えてもらえなかったのだ。
 - 森つなぎプロジェクトは、参加者が社会人ということもあって、質問に対して経験を踏まえた返事が返ってくるので、自分たちも勉強になっている。それが、将来何かの商品につながっていけばと思う。
 - 自分自身が「林業のススメ」の参加者だったが、田舎で生活することの実態、デメリットをしっかりと聞かせてもらったのが良かったと思っている。移住を考えている人は、そこが知りたいのだと思うので、手助けしたい。
 - 田舎で、現金収入だけで暮らしていくのはキビシイ。何をひねり出して、生活の足しにしていくか。それを考えて、次のアイデア出しをしている。途中でやめていく人もいる。暮らしを見てもらうイベントを通して何か他の人に伝わるのなら、次にどういう化学反応をするかを見てみたい。

Q 森選組の課題、地域の課題、林業の課題、移住の課題など、何か気づくことがあればお聞きしたい。

- 農業インターン事業は、補助金や助成金等をもらわないで採算を考えてやっているが、事業を通した普段のつながりが薄いことなどもあって、行政が持ついろいろな情報が、そういう活動団体に届くのが遅いように思う。地元で、いいことをやっても、そこへ情報が伝わらない。情報が同じように届くようになればと思う。
- 森つなぎプロジェクトをイオンと三重県の三者連携で行った時に、卒業生に県の公式な看板・肩書を付けられないかと思った。そうすれば、企業側も乗り気になるし、信用度が増すと思う。
- 参加メンバーが固定化されつつあるので、もっといろいろな人に来てほしい。スタッフ側としても、参加者側としても。
- 最近バイオマスが盛んになってきているが、木が燃やすだけの燃料扱いというのは、ちょっと残念。昔の人が植えて大きくした木を、「伐って燃やしてしまえ」というのでは、やりがい感が薄れる。木を木材としてちゃんと使える方法、需要を考えていく必要があると思う。
- 事業にはマスタープランがあると思うが、林業は100年、1000年計画が必要になる。現場の人を、そういう計画をつくるところに組み込んでもらい、後の

世代のことを思った計画をつくれば、団結できるのではないかなと思う。

【知事の発言】

- 移住に関しては、「人の縁」、「働く場所」、「場所を知っている」ということが重要だと分かった。
- “ヨソモノだからこそ、地域の価値が分かる”というのは、名言。
- 補助金をもらわないで頑張っている方が、情報が入りにくいというような差があるのは良くない。行政情報を行き届けさせる方法を考えたい。
- 「美し国おこし・三重」をやっているときは、活動組織をパートナー・グループに登録してもらうなど、活動に対しての一定の関与方法があった。今後、県として地域の活動にどう関与するか、どのように応援すれば良いかの方法を考えたい。
- 情報発信で手伝えることが出来るものがあれば、言って欲しい。
- 林業の現状を踏まえ、少しでも収入や雇用を増やすためのバイオマス発電というものはあるが、木を木材としてちゃんと使える方法については、林業政策の中でちゃんと考えていきたい。
- 先のことを考える人材の輩出、林業の人材育成については、政策集では林業大学校なども上げており、今後考えていきたい。
- 県や大台町の現場の熱い公務員のおかげで、移住につながったという話は、嬉しかったし、勇気をもらった。人のご縁は大切と改めて感じるとともに、働く場の大切さも感じた。また、生活がかかっているので、デメリットも含め伝えることも大切だと思った。
- ヨソモノのだから価値が分かる、という話もあった。自分も、三重出身ではないが、価値を探し続ける気持ちを忘れたらダメだと思った。

